

**事業の抜本的な改善方策の
実現に向けた実行計画
検証報告書
花咲線**

2025年10月

花咲線アクションプラン実行委員会

はじめに

- 本報告書は、2024年8月に策定した「花咲線（釧路～根室間）事業の抜本的な改善方策の実現に向けた実行計画」（以下「実行計画」という。）の2024年度の実組み状況について、花咲線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。
- 計画1年目である2024年度は、実行計画にもとづき、地域の関係者がＪＲと一体となって、観光利用という花咲線の特徴をふまえた利用促進、または、コスト削減に取り組んだほか、さらなる利用促進にむけ、国や北海道の補助制度を活用し、各種実証事業も実施した。
- 本検証を踏まえ、2026年度末までに花咲線の事業の抜本的な改善方策を確実にとりまとめるため、引き続き地域の関係者とＪＲが一体となり、徹底した利用促進・コスト削減に取り組むとともに、あるべき交通体系に関する徹底的な議論を行う。

1 取組方針、線区特性、目標

(1)取組方針

- JR北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うため、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、徹底的な利用促進、コスト削減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき、2026年度末までに事業の抜本的な改善方策を確実にとりまとめる。

(2)線区特性

- 「道外客、札幌圏をメインとした道内客、インバウンドによる観光利用」を線区特性とする。

(3)具体的取組に関する基本方針

- 道内外から花咲線にお越しいただくための取組などにより、観光線区としての線区特性を最大限発揮する。
- 利用促進、コスト削減の取組を推進し、線区の収支改善を図る。
- 持続的な鉄道網の確立に向け、二次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的にデータとファクトに基づく議論を重ねる。

(4)基本指標

- アクションプランの計画期間（2019～2023年度）で目標を達成できなかったことから、引き続き2017年度実績を目標とする。

① 収支状況（目標）	2026年度（実行計画終了時期）	△1,110百万円
② 輸送密度（目標）	2026年度（実行計画終了時期）	264人/日
- 基本指標は、これまでのアクションプランと同様に、その達成を引き続き目指す目標とする。

(5)線区特性に応じた目標

- 基本指標となる収支・輸送密度に加え、観光利用という線区特性に応じた目標を設定する。
- 線区特性に応じた目標（収支改善目標）

2026年度（実行計画終了時期）	301百万円
※目標達成時の線区収支	△809百万円
- 線区特性に応じた目標は、線区特性に応じた更なる収支改善の取組に努めていく方向性を示すものとする。

2 数値目標の検証①

	2024年度 実績	基本指標 [2017年度実績] (2026年度目標)	差異	線区特性に 応じた目標 [収支改善目標] (2026年度目標)	目標達成時 の線区収支 (2026年度目標)	差異
	[A]	[B]	[C=A-B]	[D]	[E=B+D]	[F=A-E]
線区収支（百万円）	△ 1,352	△ 1,110	△ 242	301	△ 809	△ 543
輸送密度（人/日）	217	264	△ 47			

線区収支

- 観光利用収入増加に向けた取組みなどの結果、道内外の国内観光客を中心としたご利用増等により営業収益（定期外収入）が増加した一方、原油価格の上昇等の影響による輸送に直接必要な費用のほか、線路等の修繕費（+135百万円）が増加したことなどから、2024年度は基本指標を242百万円下回った。
- 基本指標を下回ったものの、2024年度は収支改善に向け、主に以下の取組みを実施。

<収支改善に向けた2024年度の主な取組み>

- ①-1 観光利用収入増加に向けた地域の取組み
- ・ 繁忙期の車両増結・一部指定席化実施
 - ・ 地球探索鉄道花咲線フリーパスの発売、等

- ①-2 観光利用収入増加に向けたＪＲの取組み
- ・ 花咲線車内販売の拡大
 - ・ 普通列車を観光列車にする取組み（一部減速運転等）

上記の取組みにより、観光利用収入（定期外収入）は+15百万円（2023年度比）

- ②-1 地域と一体となったコスト削減の取組み
- ・ ご利用の少ない列車４本減便
 - ・ 東根室駅の廃止

- ②-2 ＪＲによるコスト削減の取組み
- ・ 被服配給制度の見直し

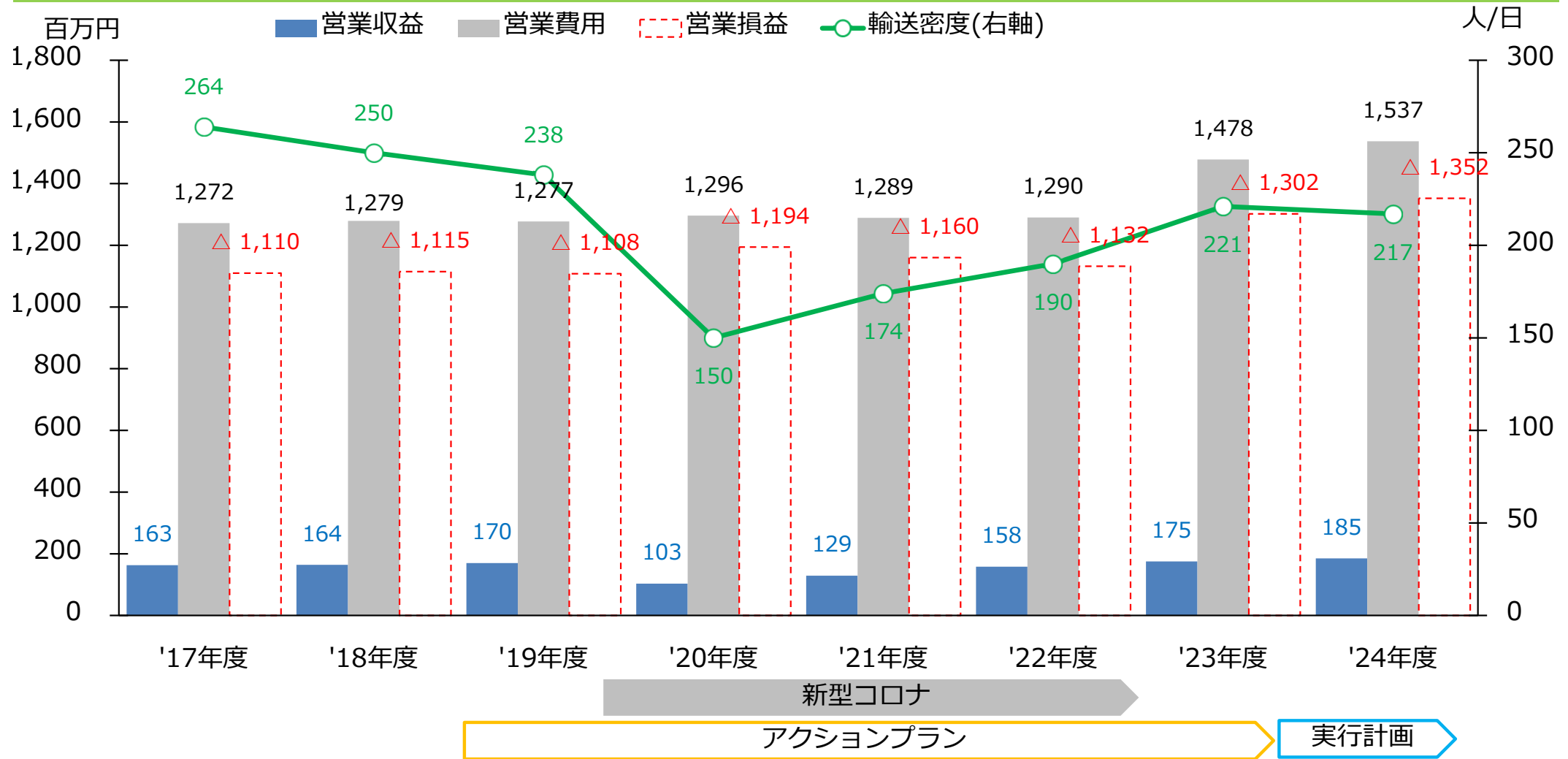
上記の取組みにより、41百万円のコスト削減

- ③ 具体的取組への地域によるご負担
- ・ 利用促進、収支改善に向け、24.8百万円の費用をご負担いただき、地球探索鉄道花咲線フリーパスや車両増結等の実証事業を実施

輸送密度

- 地域の関係者とＪＲが一体となって観光利用の増加に向けた各種利用促進に取り組んでいるものの、2024年度は基本指標を47人/日下回った。

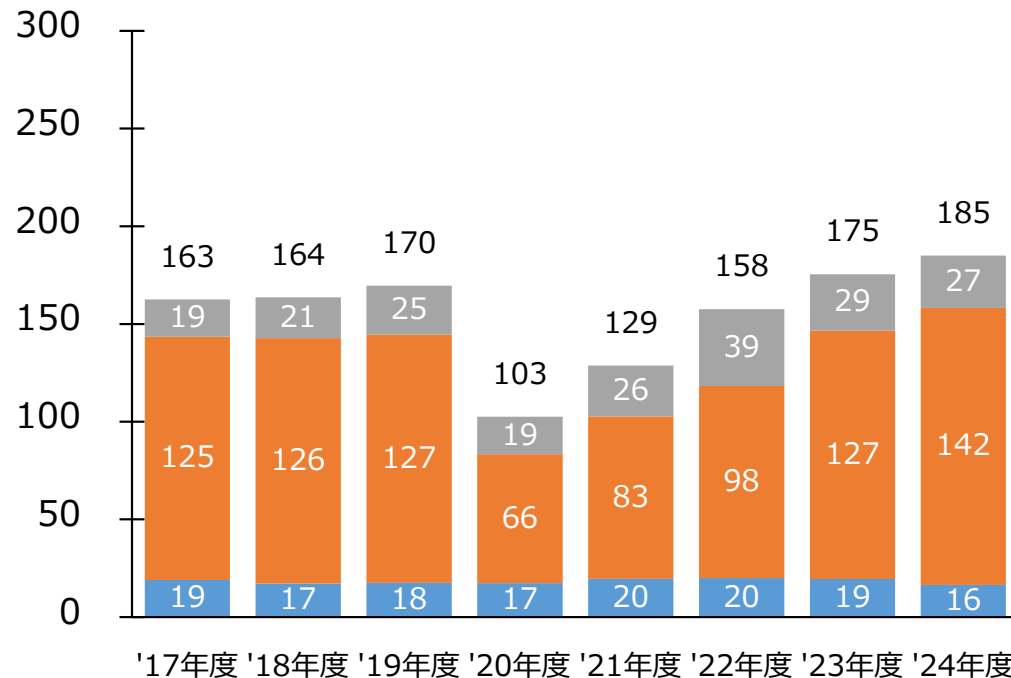
2 数値目標の検証② 線区収支・輸送密度の推移



- 営業収益は2020年度に新型コロナの影響等を受け減少した後、国内観光客を中心にご利用が増加したほか、2019年度に実施した運賃改定等により、2021年度に増加へ転じ、2023年度以降は2017年度を上回っている。営業費用は2022年度まではほぼ同水準で推移していたが、2023年度以降増加に転じた。営業損益（線区収支）は2023年度以降拡大傾向にあり、2017年度を下回って推移している。
- 輸送密度は2020年度に新型コロナの影響等を受け大きく低下した後、回復途上であったが2024年度は通学生利用の減少傾向にあることから一転減少。各年度とも2017年度を下回る状況が続いている。

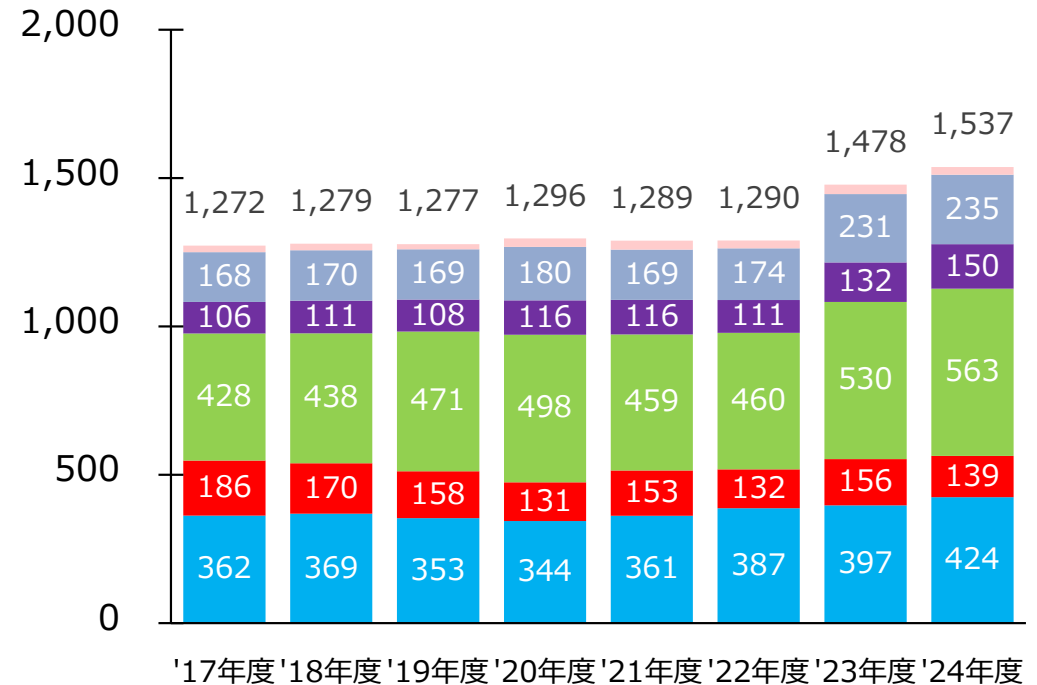
2 数値目標の検証③ 営業収益・営業費用の内訳

①営業収益（単位：百万円）



■ 運輸収入（定期） ■ 運輸収入（定期外）
■ 運輸雑収入

②営業費用（単位：百万円）



■ 輸送に直接必要な費用 ■ 車両の維持や修繕等に係る費用
■ 施設の維持や修繕等に係る費用 ■ 減価償却費
■ その他（管理費等） ■ 諸税

運輸収入（定期）は、少子化やバス等への転移の影響により減少傾向にある。運輸収入（定期外）は、2020年度に新型コロナの影響等を受け大きく減少した後、国内観光客を中心としたご利用増のほか、2019年度の運賃改定等により増加に転じ、2023年度以降は2017年度を上回って推移している。営業収益全体においても同様に2023年度以降は、2017年度を上回っている。

車両の維持や修繕等に係る費用等は減少傾向である一方、原油価格の上昇等の影響による輸送に直接必要な費用のほか、集中メンテナンスなど線路施設の維持や修繕等に係る費用が増加傾向にあることなどから、営業費用全体では各年度ともに2017年度を上回って推移している。

3 利用促進・コスト削減の取組みの検証

(1)利用促進・増収施策

取組	目標	実績	差異
小人数でも利用しやすい指定席の導入（増結・一部指定席化）	設定数 2席増	2席増	—
落石～根室間のバス実証運行（平日平均利用者数）	利用者数 30人/日	20人/日	△ 10人/日
花咲線限定 地球探索鉄道花咲線フリーパス発売	発売額 370万円	370万円	—

- ・ 繁忙期の増結・一部指定席化については、今年度は2往復目の列車についても指定席を設定したほか、前年度に設定の無かったキハ40車両の2名掛け席の座席指定を追加発売した。
- ・ 落石～根室間のバス実証運行については、休校日を除く朝便の平日平均利用24人であった。住民説明会を実施し、出発時間の見直しやバス停留所の見直し等を図った。
- ・ 地域のご負担をいただいて設定した「地球探索鉄道花咲線フリーパス」については、地域の補助予算（370万円）で完売することができた。

(2)コスト削減

取組	コスト削減額
ご利用の少ない列車の見直し（朝夜計4便減便）	11百万円
ご利用の少ない駅の見直し（東根室駅廃止）	1百万円

- ・ 朝の下り減便列車の利用者は落石～根室間の実証運行のバスを利用いただくなど、朝と夜のご利用の少ない列車（計4本）を減便したほか、ご利用の少ない駅（東根室駅）を廃止するコスト削減を実施。

4 具体的取組への地域によるご負担

(単位：千円)

自治体名	実施時期	具体的取組み	ご負担額
J R 花咲線調査・実証事業協議会	4～3月	通学利便性向上の取組み（落石～根室市内バス実証事業）	7,976
根室市	4～3月	通学定期券への助成	2,422
J R 花咲線調査・実証事業協議会	8・9月	車両増結・一部指定席導入の実証事業	6,656
J R 花咲線調査・実証事業協議会	11～1月	「地球探索鉄道花咲線フリーパス」（実証事業）への助成	3,700
根室市	3月	根室駅最東端プロモーション	4,000

5 2024年度の主な取組

繁忙期の車両増結・一部指定席化

花咲線の観光利用促進を目的に繁忙期となる8月から9月にかけて、一部列車で車両を増結。景色の良い人気の高い海側座席を指定席化し、2023年度は1往復のみであったが、2024年度は増結した2往復で指定席を設けた。さらに指定席料金の改定もあり(840円)、高単価化を図ることができた。

根室市が進める「地球探索鉄道花咲線」プロモーションの一環として地域の関係者とJRが一体となって取組んだ。



地球探索鉄道花咲線フリーパスの設定

花咲線の維持活性化の実証事業の一環として、地域のご負担により、釧路から根室までのエリアが3日間乗り放題となる「地球探索鉄道花咲線線フリーパス」を設定し、11月から発売。(大人3,000円)

予算内(370万円)で完売することができた。



普通列車を観光列車にする取組み

「いつもの列車で観光気分」をテーマに景色の良い一部区間の減速運転のほか、8月と11月の土日に沿線施設のご協力の下、車内ワゴン販売の実施を拡大。

2023年度まで実施の根室～厚床間に加え、厚岸～厚床間で新規に実施。

また、事前予約で列車へのお弁当お届けサービスのほか、車内に観光路線図の掲出や音声ガイドアプリによる沿線案内のPR強化を実施。



通学利便性向上の取組み

2023年度からバス運行や通学定期券助成など交通利便向上を目的に取り組みを開始。(根室市)

根室市落石地区から根室高校に通学するための実証バスの運行を出発時間や停留所の見直し等を図りながら継続実施。(通年)

根室市内のJRで通学する高校生を対象にJR定期券の全額補助を継続。



6 2024年度の検証

- 2024年度は、地域の関係者の皆様とＪＲが一体となり、実行計画にもとづき徹底した利用促進・コスト削減に取り組んだ。
- 具体的には、利用促進では地球探索鉄道花咲線プロモーションの一環である一部減速運転などの普通列車の観光利用拡大や花咲線車内販売の拡大の取組みを実施した。また、コスト削減では朝と夜の列車の取りやめや東根室駅の廃止など、ご利用状況に合わせた見直しや落石～根室市街間のバス運行の実証事業と絡めた取組みを実施した。
- また、実証事業として夏季繁忙期の車両増結・海側指定席の設定についてブラッシュアップを図りながら実施したほか、新たな取組みとして地球探索鉄道花咲線フリーパスを設定・発売した等、線区特性に応じた今後の利用促進の可能性を探る取組みを行った。
- これらの各種取組みを実施したものの、線区収支は原油価格の上昇等の影響による輸送に直接必要な費用の増加等により基本指標に対して242百万円、輸送密度は少子化による学生利用減の影響もあり基本指標を47人/日下回る結果となった。
各種利用促進の取組み等による道内外の国内観光客等のご利用増や2019年度に実施した運賃改定等により、基準とする2017年度実績に比べ営業収益は22百万円上回ったものの、線区収支、輸送密度ともに2割前後下回っていることから、引き続き、観光利用拡大に向けた取組みを進める必要がある。また、さらなる収支改善にむけ、安全確保を最優先としつつ、徹底したコスト削減に取り組む必要がある。
- 今後は、2026年度末までに花咲線の抜本的な改善方策を確実にとりまとめられるよう、2024年度の結果を踏まえ、ＰＤＣＡサイクルにより必要な見直しを行いつつ、徹底した利用促進・コスト削減の取組みを進めていくとともに、二次交通も含めたあるべき交通体系に関する徹底的な議論を進めていく。